



医療法人 真生会

真生会富山病院

SHINSEIKAI TOYAMA HOSPITAL

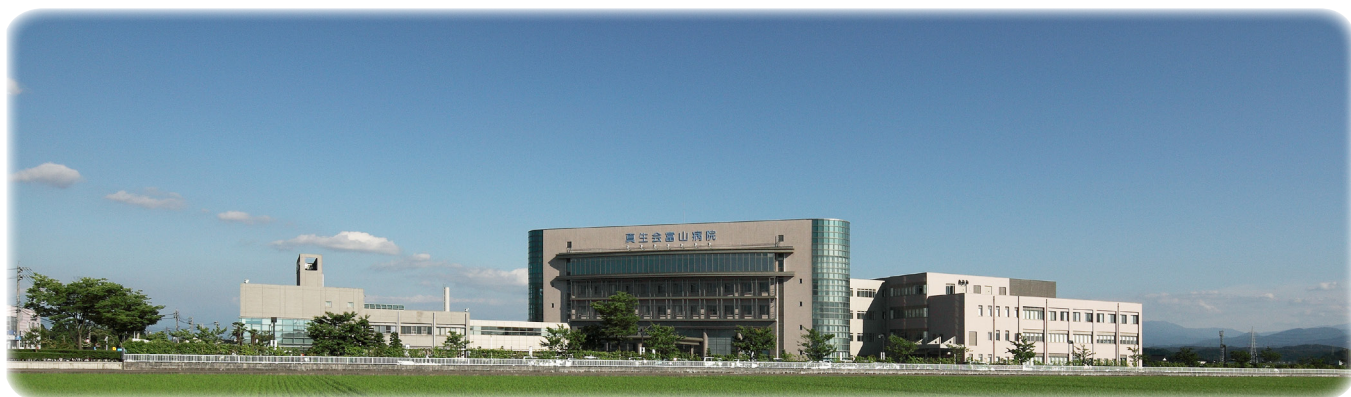
第29号 令和3年11月発行

〒939-0243 富山県射水市下若 89-10

TEL : 0766-52-2156 FAX : 0766-52-2197

<https://www.shinseikai.jp/>

地域連携だより



個々のニーズに対応できる透析医療の提供へ

平成30年5月に腎透析部門がセンター化し、3年目を迎えております。射水市の調査から市内の透析患者数は160名前後と聞き、透析医療機関が2施設と少ない射水市にあつては当院が中核病院として、できる限り地元の患者を受け入れられるようにと力を注いできました。また透析が間近と思われる保存期腎不全患者への対応のため、腎不全専門の看護師も加わったCKD指導外来を開設しております。

将来の治療選択として当院で可能な血液透析、腹膜透析のみならず、腎移植についても正しい情報を提供し実現へと導いています。現在は血液透析を行えるベッド数が25床と個室1床を備えてあります。昨今、透析患者も高齢化への対応が迫られる中、特に通院の負担は大きな課題です。以前は民間タクシーの利用や家族の送迎をお願いしてきましたが、センター化に伴い病院車による無料送迎サービスを開始しました。大変好評で利用者が年々増加しております。午前・午後の2クール制で行ってきましたが、いずれの時間も3台の病院車がフル稼働しています。11月から夜間透析が始まり、夜の運行サービスも提供できるよう整備したいと思います。



副院長
腎透析センター長
ふたむら あきひろ
二村 明広



これからも日進月歩の透析医療を提供し、個々のニーズに対応できる施設へと発展させ、地域連携のもと関連施設の皆様のご依頼に迅速に対応できるよう取り組んでいきたいと思ひます。

25床の透析室

漢方医学と鍼灸 ～真生会なつめ鍼灸院オープン～

【目指すは「統合医療」！】

統合医療室 室長 ひらなひろふみ 平名浩史（消化器内科医師）

新型コロナウイルス感染症。世界の科学技術の粋を集めて、ワクチン、抗ウイルス剤などの新薬が開発されて、多くの方が安心できる兆しが出てきました。

その一方で、「腰が痛いから検査をした。医師からは『異常なし』と言われた。痛み止めを飲んだけど治らない…」というような、診断名がつかず症状もよくなる不安は珍しくありません。原因が特定できて治療薬がある疾患ならば、西洋医学の独壇場です。しかし、診断名がつかない場合、対症療法が中心になります。

そんな時、選択肢の一つが、漢方医学や鍼灸です。多くの場合、それぞれが西洋医学の補完医療と位置づけられ活用されています。

当院では漢方を処方する医師、薬剤師と鍼灸師の多職種カンファレンスを通して、2つの医療の相乗効果を引き出し効果の最大化をはかる統合医療を目指して漢方医学の充実と鍼灸院開設に至りました。

広島大学総合内科漢方診療センター教授のおがわけいこ小川恵子先生のご指導のもと、さらなる充実をはかり、より多くの方が統合医療の恩恵にあずかることができるように、エビデンスも出していきたいと思っております。

西洋医学ですっきりしない症状に「何かできないか」という思いから始まった統合医療です。今後とも、多くの皆様のご支援とご指導をいただけましたら、幸いです。

【伝統のある鍼灸治療】

統合医療室 副室長 はらだみき 原田樹（麻酔科医師）

人生100年時代となり、ストレス社会の現代はさまざまな不調と隣り合わせです。しかし西洋医学では「疾病」として取り扱われず、つまり治療法がないさまざまな症状でお悩みの方が多くあります。また、西洋医学のみではコントロールが難しく症状がスッキリしない方もあります。少しでも症状を改善していただき皆様に元気になっていただくことが、私たち医療者の願いでありますし、それが皆様の幸せへとつながると考えております。

この患者の皆様の幸福度を、私たちの提供できる医療を通して最大化することを目指し、統合医療の実現に向けて当院は動き始めました。現在は漢方外来と鍼灸治療の提供を開始しております。

鍼灸院は今年8月、院内に真生会なつめ鍼灸院としてオープンいたしました。漢方外来に通院している方以外もご利用いただくことができます。



鍼灸院の受付（左）、施術ブース（右）

鍼灸の歴史は古く、中国では紀元前から行われている治療法です。この間、なくなることなく継承されている理由は、やはり「効果があるから」でしょう。鍼灸を含めた漢方治療は西洋医学とは違った得意分野を活かし、西洋医学では解決の難しい問題に対して皆様の健康を支える存在であります。

西洋医学と東洋医学のいいところ取りをして皆様の健康を支える統合医療は人生 100 年時代にふさわしい医療の形であると考えております。



鍼灸 Q & A

Q、鍼灸院に「なつめ」と名づけられたのはどうしてでしょうか。

A、なつめは漢方にも使用される生薬であり、心を安定させる作用があります。また、なつめの花言葉は健康、健康の果実でありご来院いただく皆様の健康を念じる意味を込めて付けました。

Q、どのような方が治療の対象でしょうか。

A、具体的な治療対象はありません。病気でない人であっても身体のメンテナンス目的に治療を行うことができます。西洋医学では改善できない症状等にもアプローチすることができます。

Q、刺さない鍼もありますか。

A、接触鍼という方法があります。使う鍼は同じですが、実際に皮膚には刺さずに触れさせるのみで治療します。そのため血液サラサラ系のお薬を内服中の方でも安心して施術を受けていただけます。

Q、はじめて鍼治療を受ける人にアドバイスはありますか。

A、鍼灸に対して不安をお持ちの方もいると思います。お一人お一人の思いに寄り添って施術させていただきますので、ご不安や要望があればお伝えください。

Q、年齢制限はありますか？

A、特にありません。真生会なつめ鍼灸院では小児鍼も行っております。小児専用の特殊な用具を使用して鍼を刺さずに治療を行います。一度ご相談ください。

Q、金属アレルギーの人でも施術を受けられますか？

A、真生会なつめ鍼灸院ではアレルギーが起きにくいとされているステンレス製の使い捨て鍼を使用しています。ご心配な方は直接ご相談ください。

管理栄養士、在宅へ ～訪問看護師との連携、地域の関係づくり～

今年3月から始まった栄養カンファレンス。
目的と今後の展望を「訪問看護ステーションころ」の
中井ともこ所長と結川美帆管理栄養士に聞きました。



なかい
中井ともこ
訪問看護師



ゆいかわみほ
結川美帆
管理栄養士

—どのような目的で始まったのでしょうか。

結川：院内で関われる患者さんは氷山の一角です。管理栄養士が介入する頃には栄養状態が低下しきっていて、そこに疾患が加わり食べられなくなってしまう方が本当に多いと感じていました。

—訪問看護利用者の状況はいかがですか。

中井：摂取エネルギー不足で痩せている方、嚥下障害のある方、身体的状況だけでなく、家庭環境、経済状況も考慮した栄養管理が必要な利用者が増えています。何か改善できないか結川さんと話し合い、カンファレンスを始めることになりました。

—カンファレンスを始めて変わったことはありますか。

結川：食膳栄養科には5名の管理栄養士がいますが、ほとんどのスタッフは入院と外来しか知りません。在宅での患者さんの様子を聞ける良い機会になっています。外来での関わり方、入退院支援の視点も変わってきます。

中井：当院を退院後、訪問看護を利用する方は、在宅での食事状況を把握し、管理栄養士と情報共有することで継続した栄養指導ができます。これまで管理栄養士と関りがなかった利用者も、訪問看護を通じて栄養相談ができるようになりました。

—在宅で栄養管理を継続するには、地域のサポートも重要になってくるのでしょうか。

中井：ケアマネジャーはその方の暮らしをよく把握しておられます。情報を共有し、必要な方には管理栄養士につなげられる仕組みができればよいと思います。

結川：「望む場所で最期まで過ごしたい」という思いを実現するため、低栄養のリスクがある方へ早期に関わっていきたいと思います。院外へ出て、ケアマネジャーはじめ地域の皆様と連携し、気軽に相談し合える関係を築いていきたいと思っています。



訪問看護師、管理栄養士、理学療法士など、在宅に関わるスタッフが参加している